

當日早朝、所司設御冠座於南殿御帳內南面。○中又設洗器於殿東東面壇上。○盛匣盥於案上、各加手巾、主水司官人分立、案

下、內藏寮官人候手巾、

〔管見記〕永享五年正月三日戊午、今日天皇。○御年十五、御花園有御元服事。○中南殿東西立洗器机。各軒廊上

置黑漆椽一具、手巾、掛白布一丈、木

〔東寺要集二〕入道无品親王性信、治安三年三月七日庚午、略於仁和寺觀音院授兩部傳法灌頂。○中

一大阿闍梨御房。○中

手巾一條。有宮臺

〔諺話浮世風呂。四編中〕水汲て來ても盥はなし、杓から片掌へ水を請て、ごし／＼とお顔の摘洗ぢや、掛竿が一つぢやによつて、手巾と雜巾と取違て、顔拭ふ事がなんぼもあるぢや、

〔榮花物語。二十四枝〕けふも○萬壽二年正月二十三日四條大納言。○藤原うちのおとゝ、藤原まいらせ給はず、

故うへ○公女の御忌月なりければ、うちのおとゝはむげにまいらざらんはおぼつかなくゆかし

とて、御なをしにてうちに參らせ給て、女房の中にまじらせ給ひて、きぬのそでぐちつくるはせ給、かみかきなどせさせ給を、女房中々いとわびしう、身よりあせあゆなどは、これをやいふ

らんとわびしうおぼえて、おもてあかむ心ちすれども、身はひえたり、おほかたのありさまは、御

まへの御覽するを、はづかしういかに／＼と、人のかたちふるまひよりはじめ、きぬのありさま

にはひなどを、御らんずとわびしくをの／＼おもひつゝ、このなみゐてみ給ふらんめどもは、さ

はれたれともしられ奉らねば、御靈會のはそこのてのごひして、かほかくしたるこゝちす

るに、このうちのおとゝは、ゑみまぎれさせ給ぞ、いみじうわびしき事なりける、

〔嬉遊笑覽。七祭〕按るに、榮花物語。○中云々、細男が覆面したるをいふなり、春日若宮御祭禮圖に、